

一 挾箱持 貳人

一 草履取 壹人

一 雨天之節は笠持 壹人

右之通可相通之、縦國持大名たりといふ共、此書付之外、人數多通間敷者也、

月日

〔徳川禁令考<sub>二十一</sub>下馬下乗〕享保三戌年四月

御城内召列候供廻之事

御城内、外召列候供廻り等之儀、先年被仰出候處、近年猥相成候間、元祿十二卯年被仰出候通、彌相守可申付候、以上、

四月○中略

布衣以上御役人中、大手櫻田より下乗迄之内、乗物ニ附候ため侍三人召連申度様相尋申候

面々も有之候、六尺は麤末成者ニ候間、此段は右之通ニ而も可然哉と奉存候、

下乗橋迄も侍貳人召連候様にと、口上ニ而被仰渡候、

駕籠税  
〔享保集成絲綸錄<sub>四十五</sub>〕元祿十三辰年八月

一 今度町中借駕籠、御免之御書付出候に付、借駕籠之分も三傳馬町名主共、極印致候様に被仰付候、依之爲極印賃、借駕籠壹挺、壹ヶ月に銀三匁宛、三傳馬町中<sub>江</sub>出し候筈に候間、駕籠持主共、此旨可相心得候、

右兩品之儀、申觸候様にと、今日御内寄合に而被仰渡候、委細三傳馬町名主共方、可申談候間、少も違背有之間敷候、以上、

八月